

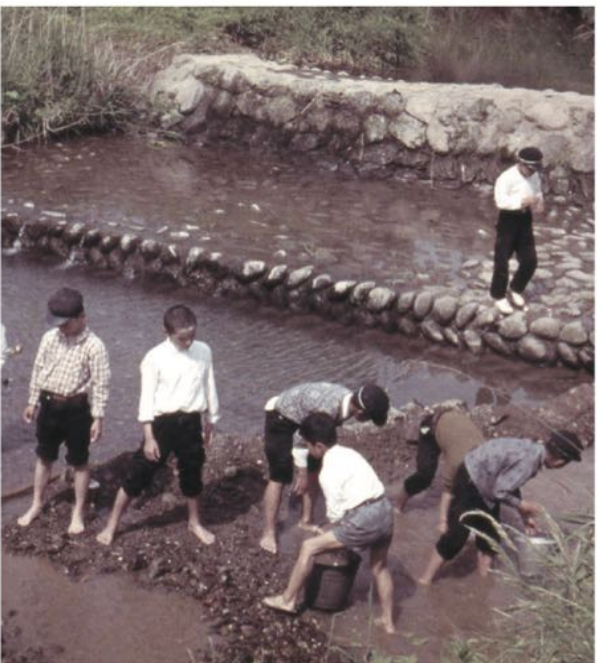
## ていねいな暮らしのあつたころ

## 佐野二彦の撮った伊深の里山

ケラなどを捕る様子です。餌も自分たちで集めました。また、釣りざおや仕掛けを作るのも楽しみの一つでした。

その他に、たも網や竹みを使って川のふちやヨシなどの茂みに隠れている魚を捕まえました。時には、ガマツや石積み穴の隙間のところに手を入れて捕まえる子どももいました。

子どもは、今より川で遊ぶことが多かったようです。そこから、魚取り以外にも生き物や道具の作り方など多くのことを学びました。



「川水をせき止めて小魚を捕る子ども」 昭和39年5月11日撮影

## 「魚取り」

伊深には、川浦川と大洞川という魚を捕るのに手頃な川が流れています。

右の写真は「カイドリ」をしている様子です。石や泥でせきを作って魚が逃げないようにし、水をバケツでくみ出して捕まえました。上級生が、リーダーとなって下級生にやり方を教えているように見えます。

下の写真は、魚釣りの餌となるカワゲラやトビ



「魚釣りの子ども」 昭和38年5月12日撮影